

香川県のアスパラガス栽培は、昭和 46 年に水田転作作物として露地に導入されたのが始まりで、その後ハウス栽培、半促成長期どり栽培技術などが導入され、現在約 70ha ある。栽培技術の変遷とともにアスパラガス農家の所得は安定していったが、近年、激しい産地間競争、低価格の輸入物の増加、品種の画一化などから価格は低迷気味である。そのため、端境期に有利販売できるような超早期萌芽性や多収性を持つ香川県オリジナル品種として、「さぬきのめざめ」(現在種苗登録出願中)が開発されたところである。この品種は、早期萌芽性、多収性、高品質などの特性を有しているが、これらの長所を生かすにはハウス栽培が前提となる。しかし、高齢者を中心に低コスト化が求められていることから、簡易雨除け栽培法について検討を行うため、株間、夏秋芽収穫の有無、立茎方法等が収量・品質に及ぼす影響について調査した。

キーワード：アスパラガス、さぬきのめざめ、簡易雨除け栽培、夏秋芽収穫、立茎方法